令和８年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『いもいリビングらぼが創出する
持続可能な地域コミュニティ』

活動団体の活動地域：長野県長野市芋井
活動団体名　　：芋井地区住民自治協議会
中間支援主体名　　：認定特定非営利活動法人
長野県NPOセンター

参加団体の基本情報

（１）活動団体の基本情報

団体名	芋井地区住民自治協議会
活動地域	長野県長野市芋井

専門性・強み
長野市が設置した地区住民自治組織のひとつ。住民を主体に4部会（区長部会・福祉部会・教育部会・振興部会）で運営している。 ＃いもいリビングらぼ　＃心豊かに暮らし続けられるinaka ＃地域住民の交流　＃生活環境の改善　＃福祉の向上 ＃持続可能な地域コミュニティ　＃関係人口と交流 ＃里山の環境保全　＃草刈りバスターズ　＃YOSAKU隊

団体概要
芋井地区の住民相互の交流と親睦を図り、共通の利益の増進、生活環境の保持・改善に努力し、文化・福祉の向上と豊かで住みやすい地域づくりに寄与することが目的。

（２）中間支援主体の基本情報

団体名	認定特定非営利活動法人　長野県NPOセンター
活動地域	長野県

専門性・強み
長野県における初のNPO法人として25周年を迎えた。 活動の4本柱は、①持続可能な地域づくりのためのパートナーシップ促進、②地域・社会へのつながり・参画促進と孤立防止、③社会変革のパートナーとなり得る組織へのコンサルティング、④持続可能な地域づくりに向けた住民自治の実践支援。

団体概要
○ビジョン（目標）「みんなで100年先も暮らしたい長野県にしよう！」 ○ミッション（使命）「信頼される社会の変革者として、人と地域の参加・協働を創り出す」 長野県における市民社会の発展を目指し、民間非営利組織が地域や分野を越え幅広く活動するための基盤づくりを進めるとともに、企業や行政等多様な主体とのパートナーシップの形成促進と持続可能な地域づくりの推進を目的とする。

活動団体と地域の紹介

飯縄山麓の南斜面と飯綱高原からなる中山間地。
市街地から車で30分、首都圏からもアクセス良好、新幹線で1時間半ほど。
自然資源・山林資源が豊富。
りんごと高原野菜が特産品。

- 総面積：32.6㎢
- 人　口：1,833人　2025年4月1日 前年から40人減
- 世帯数：953世帯　前年から72世帯減
- 高齢化率：48.6%　昨年値

活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

多様な地区住民と地区外の関係人口が人材交流・協働することにより、
持続可能な地域コミュニティを創出し、自然環境を再生・整備する。
自然・歴史・文化と向き合い　心豊かな田舎をつくる

■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

多様な視点で持続可能な地域を探る場「芋井の未来を楽しくする場」として「いもいリビングらぼ」を2021年に設置している。地域住民と地区外の専門的知識やスキルを持った企業やNPO、市内の大学に通う学生など若者も巻き込んで多様な発想やノウハウを積極的に取り入れたいと考えている。

■ローカルSDGs事業として取り組む内容

1.草刈りバスターズ・芋井YOSAKU隊事業

2.芋井総合市民センターのこけら落としイベント開催とその後の継続事業

3.農地再生事業

4.移住促進事業

■地域の現状と課題

昭和和20年代に約4,200人いた人口は一貫して減少し、現在は半減している。長野県NPOセンターが同地区の2003年～43年の人口の推移・推計をしたところ、今後20年間は一層の少子化、若者層の流出による生産年齢人口の減と後期高齢者の割合増、地域活動の担い手である前期高齢者の減が同時に進むことがわかった。また、公共交通サービスの減（バスの運行減）は小中高校生の通学、高齢者の移動や買い物問題を発生させている。

現在の住民自治協議会は、地区内の構成団体のみで編成されており、事業が内向的になりがち。役員は、70歳代後半の男性が中心で、女性の参加が少なく、若い世代の流出により担い手が不足している。また、地区内の公園等は整備が行き届かなくなり荒れて、訪れる人も少なくなっている。

（参考）ローカルSDGｓ事業の紹介

草刈りバスターズ

【概要】毎年6月に「草刈りバスターズ養成講座」を開催。

未経験者には爽快な草刈り体験を提供し、
ステップアップしたい人には熟練の技
とコツを教えて地域の草刈りを担う
「エキスパートチーム」として登録する

【段階】取り組み開始から4年目
【実施時期】2025年6月7日
（様子は二次元コードを参照↘）

【活用している自然資本・地域資源】
次々と無限に生えてくる草
さわやかな飯綱高原の自然環境
熟練の技を有する草刈りのベテラン

【事業により生じたor 生じそうな成果】
草刈りによる地域の環境と景観の保持、エキスパートチームの連携による地域の助け合い文化の醸成、講師としての副収入、地域ファンの獲得

今後の展望

草刈り体験を旅の楽しみのひとつにした「草刈りバスターズ・ツアー」を販売して、地域外から旅行者が訪れるようにする。参加者が飯綱高原・芋井地域のファン（関係人口）となってくれるよう、また地域の関係者も楽しんで継続できるよう企画を工夫する。

いもいワクワクくるくるマルシェ

【概要】
2026年夏に完成予定の「芋井総合市民センター」（長野市市役所支所と公民館、芋井地区住民自治協議会の三者が入居）を活用して、地域ににぎわいを
創出し、住民の出番をつくる。

【段階】企画検討中
【実施時期】2026年8月予定

【活用している自然資本・地域資源】
地域で活動している団体や事業者
ながの移動販売つなぎ局

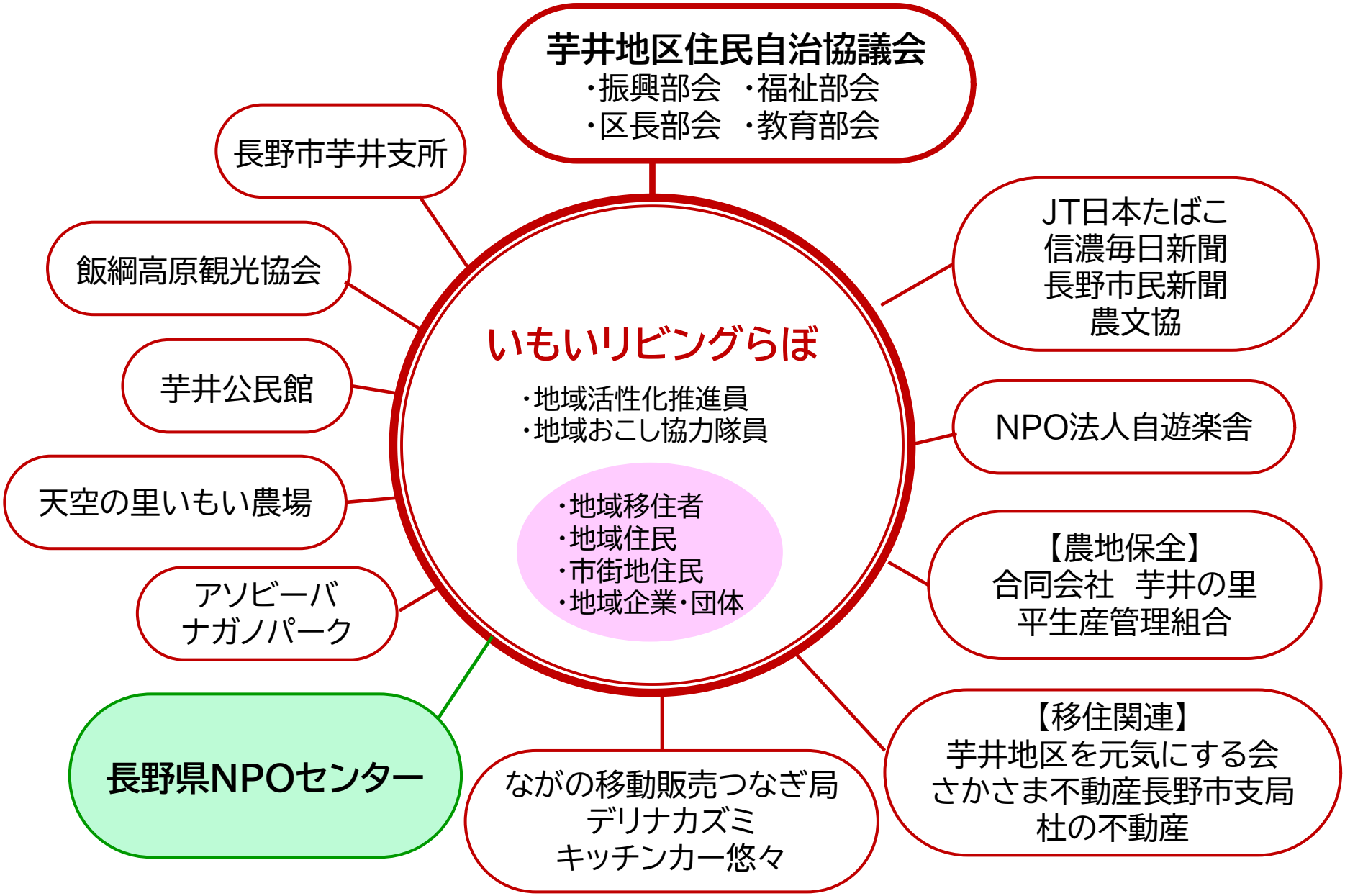
【事業により生じたor 生じそうな成果】
地域のにぎわいと憩いの場の創出
住民の参加意識の醸成
地域住民の交流拠点、移住促進の窓口

今後の展望

完成オープン時の「こけら落としイベント」企画をはじめとして、地域がにぎわう機会として「いもいワクワクくるくるマルシェ」を定期開催して定着させる。

また、モーニングや飲食、日用品などを提供できる場を設けて、地域住民同士はもとより訪問者との交流を深めて芋井地域のファン（関係人口）を増やしていく。

（参考）現状の地域プラットフォーム



（参考）現時点のマンダラ

「いもいリビングらぼ」がめざす持続可能な地域コミュニティのイメージ
やりたいこと
心豊かな田舎
希望
みんなに出番がある
売店・食堂
移動販売・居酒屋
地ビール
集う場所
古民家図書館
ソフトクリーム
安心
スマホで幸せ体験会
防災・減災
助け合い
見守り、声かけ
おせっかい
地域の安全
シェアリングサービス
農業機械や日用品の貸し借り
多様な経験と知識・スキル
移動支援・買い物支援
草刈りバスターズ
芋井 YOSAKU 隊
楽しみ
シェアビレッジ IIZUNA
地域新聞イーモイ
天空の里いもい農場
こしかけフェス
資源
古民家・空き家
暮らしに役立つ情報
遊休農地
未利用資源の活用
竹林、落ち葉、雑草
もみ殻、ぬか
人材
元村の住民
移住者
地域内外の事業者
芋井のファン
顔が見える関係
自然
市街地に近い
標高 1,000m
涼しい・爽やか・静か
農的なくらし・自給自足
豊かな自然
のどかな里山
飯綱高原
湧水・空気・木・星空
おいしい農産物
季節の景観
元村で絶景カフェ
飯綱高原ハーブ
癒しの湯・善光寺温泉の復活
文化
歴史
善光寺
飯縄山
戸隠古道
伝統行事・お祭り
神社・石仏・石碑
歴史学習会
美しい自然と
心豊かな住民が
融和した里
芋井地区住民自治協議会

３カ年状態目標

■2027年度末の状態目標

〇草刈りバスターズと芋井YOSAKU隊事業、「芋井総合市民センター」を活用したマルシェ等の開催がそれぞれ地域に定着して、持続性と経済的に自立できる可能性が見えている。
〇関係するステークホルダーと地域内の住民ならびに関係人口とが相互に関係を強めているとともに、移住希望者が現れている。

■2026年度末の状態目標

〇草刈りバスターズと芋井YOSAKU隊事業が地域に定着し、地域の要望に応える活動が前年以上に進むとともに、ボランティアに前向きな企業等の協力を得て活動参加者が増えている。
〇「芋井総合市民センター」を活用したマルシェが開催され、地域内交流とにぎわい創出、地域外から芋井を訪れる機会の増加・ファンの獲得につながっている。

■2025年度末の成果と振り返り

〇前年は四半期に１回しかなかった「いもいリビングらぼ」会合を、毎月１回、定例で開催することができた。
〇前年に引き続いて、草刈りバスターズ養成講座と地域活動、芋井YOSAKU隊の活動ができた。特に草刈りバスターズは今年から地域の要望に応えた活動をはじめることができた。
〇コミュニティ拠点「いもいリビングらぼ実験室」のテスト運営を計画していたが、建設中の「芋井総合市民センター」を有効に活用することに視点を移した。

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。（最低３つ記載ください。）

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと （ヒト/モノ/カネ/仕組み/機能等々）
①	体制を整える	2026年度前半	ステークホルダー候補の団体や企業等を訪問し、協力関係をつくる。	訪問チームの構成
②	事業主体を探す	2026年度中	ステークホルダーの輪を広げながら、事業化の中心を担うような仲間を探す	マルシェの継続開催、Win-winとなるような協力関係の構築
③	事業を生み出す	2026年度中	事業が将来も持続する仕組みづくり	持続に必要な人材と収益可の目途

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■中間支援主体の1年間の支援目標

「いもいリビングらぼ」の運営を支援することによって会合が定着かつ活性化し、地域住民の自発的な動きが生まれ「芋井総合市民センター」を活用したマルシェ等の開催で地域内交流とにぎわいが創出され、地域外から芋井のファンと移住希望者が現れている状態をめざして、全体的な運営と個々の具体的な取組をサポートする。

■支援計画

	活動団体の取組における現状と課題（見立て）	課題を解決するために必要と考える手段（打ち手）
①	毎月1回定例開催してきた「いもいリビングらぼ」のあり方を変え、参加者を増やすことを望んでいる。	芋井総合市民センターの開所に向けた取り組みが具体的に進展していることを着実なステップととらえ、女性が参加しやすいような工夫などを加えて、次の実験的な行動へつなげていく。
②	芋井総合市民センターの開所にあわせて、「こけら落としイベント」と地域住民が主体となったマルシェを開催し、地域にぎわいを創出しようと準備を進めている。	地域の将来につながる「一歩を踏み出したこと」を自信として、これを継続することで次のステップと新たな協力者・参加者を獲得しながら、地域外からのファンと移住希望者の創出へつなげていく。
③	草刈りバスタースが地域に要望に基づく活動をはじめたことで住民の理解と期待が高まる一方で、現場で草刈りを担うエキスパートチームの負担増を心配に思っている。	異業種交流会等で中山間地には人材とアイデア・技術を活用するチャンスがあることをアピールしながら、草刈りバスターズへの参加を呼び掛けている。知名度は確実に上がっているので、企業等への個別対応を続けて参加者を増やす。

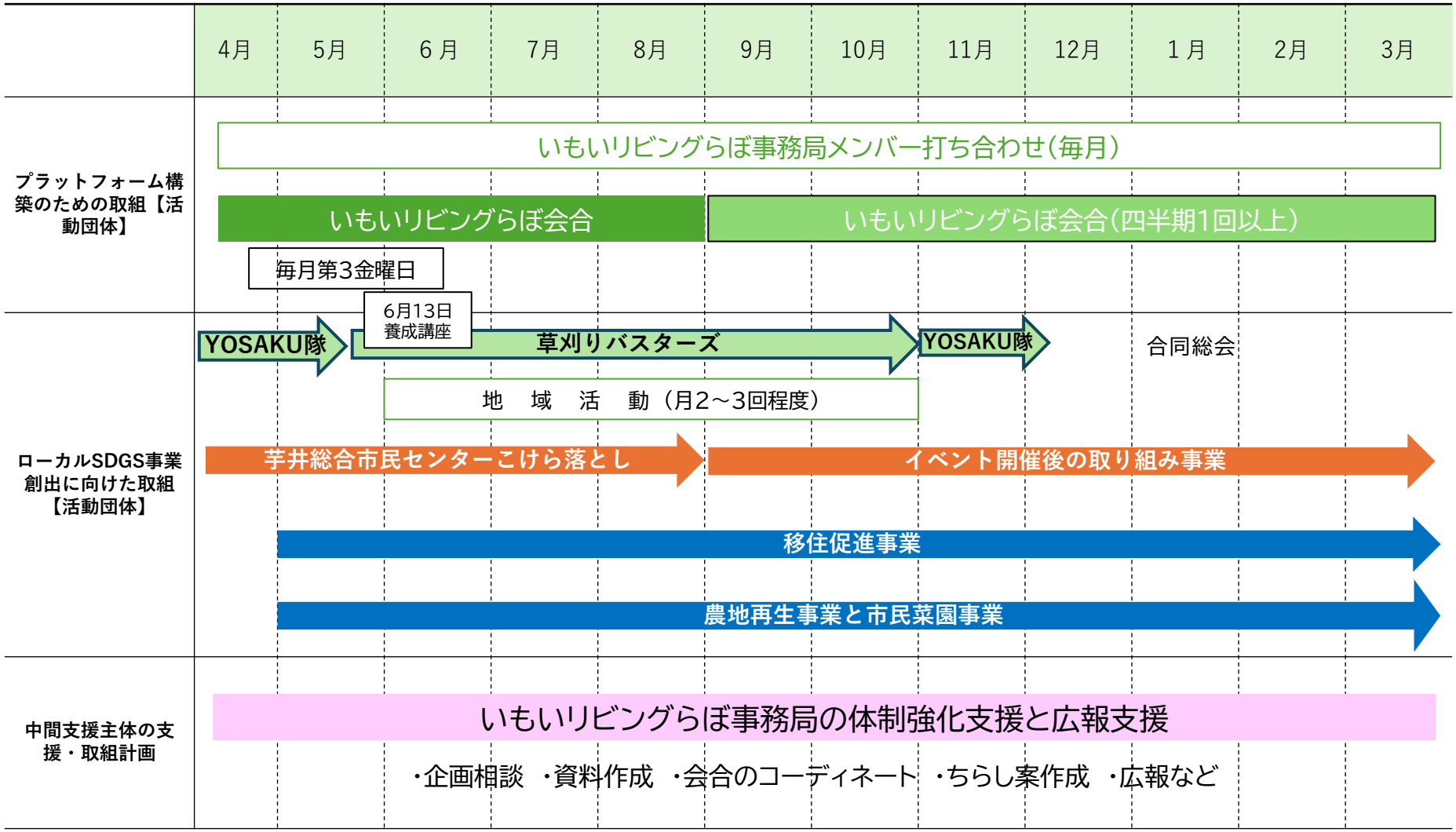
中間支援主体のありたい姿

■中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

いくら対話を深めても「やってみよう」という現場からのひと声がなければ、物事は前に進まず「頭の体操」ばかりになってしまいかねない。
地域の活動団体等が置かれている状況を俯瞰して、本事業を通して蓄積した課題解決と地域づくりに活かせる取組や工夫、地域住民を対象にした広報やステークホルダーの拡大に向けた対応方法、ローカルSDGs事業の具体化に向けた第一歩の踏み出しサポートなどのノウハウを活かしながら、長野県NPOセンターのミッション(使命)である「信頼される社会の変革者として、人と地域の参加・協働を創り出す」を推進する。

■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

長野県NPOセンターのビジョン(目標)「みんなで100年先も暮らしたい長野県にしよう!」を実現するため、「持続可能な地域づくりに向けた住民自治の実践支援」で関わっている長野市内の中山間地「戸隠地域づくり協議会」・「大岡ふるさとづくり協議会」・「七二会里山整備利用推進協議会」の各活動支援と、県内の市民活動サポートセンターなどが参加する「中間支援組織ネットワーク」を活かして本事業の成果を他地域へ普及させ、県内のより多くの地域が持続可能で100年先も暮らしたいと思えるようになることに貢献していく。
また、地域づくりに関わるステークホルダーを増やすために、地域内の諸団体と事業者などを一堂に集める「地域サミット」（長野市の七二会地域と戸隠地域で開催済）の開催を引き続き働きかけていく。

活動・支援スケジュール

■スケジュール